

長年の功績に深く敬意を表します

# 平成21年度大館市功労者

大館市功労者表彰は、市勢の発展、社会福祉増進、産業の振興、保健衛生の向上など、広く市民の模範となる功労があった個人や団体に対して行われます。毎年、市の記念日である4月1日に表彰式が行われ、今年度は次の方々が表彰されました。



小畑文夫氏  
(四羽出・80歳)

三浦納税貯蓄組合設立に奔走し、昭和49年、設立と同時に組合長に就任。以来、31年の長きにわたり、組合員の納税意識高揚と市税収納率向上に尽力されました。

特に、平成17年度に同組合が市税連続完納表彰で25年表彰を受賞したことは、氏の手腕によるものが大きく、納税貯蓄の向上に多大な貢献をされました。一方、地域では平成9年から9年間、大館市行政協力員として地域と行政の連絡・調整に力を注ぎ、市政の円滑な運営に貢献されました。



工藤一郎氏  
(田町・86歳)

昭和46年から27年間、大館市民生委員児童委員として社会的弱者の自立更生を援護されました。また、昭和54年から21年間、大館市身体障害者協会連合会長を務められ、この間、秋田県

身体障害者福祉協会副会長、大館市社会福祉協議会理事などを歴任されました。さらに、身体障害者の福祉増進のため、身体障害者福祉センターやサン・アビリティーズ大館の建設推進にも尽力されるなど、長年、市の福祉分野のリーダーとして地域福祉の向上に多大な貢献をされました。



齋藤竹嘉氏  
(川口4区・88歳)

昭和47年から30年の長きにわたり、川口(中)第一納税貯蓄組合長を務められ、卓抜した手腕を発揮して組合員の納税意識高揚と市税収納率向上に尽力されました。

特に、平成8年度に同組合が市税連続完納表彰で25年表彰を受賞したことは、氏の功績によるものが大きく、納税貯蓄の向上に多大な貢献をされました。また、昭和52年から平成7年まで大館市納税貯蓄組合連合会の理事として、連合会の円滑な運営と市税収納率向上事業の推進に寄与されました。



鈴木安幸氏  
(軽井沢2区・82歳)

昭和48年から28年の長きにわたり、大館市民生委員児童委員として、社会奉仕の精神を持って、地域住民の良き相談相手となり、助言・指導を行うなど、多くの社会的弱者の自立更生に尽力されました。

この間、平成4年から9年間、十二所地区民生委員児童委員協議会会長を務められ、率先して様々な地域福祉問題に取り組んでこられました。その積極かつ果敢な姿勢に地区の信頼も厚く、大館市の社会福祉の向上に大きく貢献されました。



日景比内氏  
(大通・70歳)

昭和62年から平成15年まで大館市議会議員として地方自治の進展に尽力されました。この間、平成9年5月から市議会副議長、平成11年5月には議長に選任されるなど要職を歴任。強固な信念を持って職務を全うし、その卓越した指導力により市勢発展に大きく貢献しました。

一方、50年以上にわたり、大館市防犯協会会員として防犯活動に携わり、秋田県防犯協会理事、大館市防犯協会会長などを務められ、先頭に立って活発な地域安全活動を推進し、犯罪の防止に力を注がれました。